辻元清美の永田町航海記 102

イラストレーション／石坂啓

政治は理想と現実の狭間でもがくこと
市民運動出身の朴ソウル市長と再会

二月一三日、久しぶりに菅直人前首相と湯浅誠さん、福山哲郎前官房副長官、菅さんの元秘書官、そして私の五人で会う。社会的包摂政策を推進してきたメンバーで情報交換だ。「生活保護への攻撃がヒドイ」と、湯浅さん。「生活保護に切り込め」と厚労省に多数の議員からプレッシャーがある。数年前、「派遣切りはけしからん」と報道したメディアは、今では生活保護不正受給をクローズアップ。公務員だけではあき足らず、次は生活保護受給者叩きか。不正はアカン、でも本当の困窮者まで疑いの目にさらされかねない。そんな風潮に政治家が迎合してどーする！

私たちは個人寄り添い型で自立を促すパーソナルサポートなど、菅政権時代の社会的包摂政策を強化する機関の立ち上げで一致、即行動へ。

二月五日、大阪で細野豪志環境、原子力担当大臣と私で国政報告会を。四〇〇人が参加。原発や自然エネルギーなどの課題解決は、永田町や霞ヶ関を飛び出して市民と直接向き合って進めることが大事。

さて、細野さん。これだけは聞いてほしいと切り出したのは、東北の被災地の瓦礫（がれき）処理問題。

「放射能測定は徹底的に行なって、安全なガレキを受け入れてほしい」

先日、地元の大阪・高槻駅前で女性数人がチラシを撒いていた。受け取ったチラシには「ガレキ受け入れ反対」。全国の自治体議員に受け入れ反対の表明を、と迫る市民の動きが強まっている。被災者への「絆」や脱原発を訴えるが「ガレキはNO」という人も。「本当に安心なのか」という政府への不信感が根底にあるが、それだけ？　受け入れたのは、アノ石原慎太郎都知事が決断した東京だけ。この現状をどう見るか。

二月一〇日、久々に嬉しいことが。旧知の朴元淳（パクウォンスン）ソウル市長と再会したのだ。一〇年以上前、当時「参与連帯」という市民運動団体で「落選運動」のリーダーだった朴さんにソウルでお会いし、すぐ意気投合した。その後、市民運動から政界に入った私を朴さんの著書で「NPO出身議員」として韓国で紹介してくれた。

その朴さんがソウル市長選挙に立候補。「いよいよ、出てきたか」と私は思った。当選のニュースを見て、テレビの前で一人バンザイをした。今回はソウル市長としての来日だ。「一〇〇〇万人のソウル市民と就任式がしたかったので、オンライン就任式をしました。当日は七万人、その後一〇〇万人のアクセスがありました」「青年名誉市長、障がい者名誉市長、シニア名誉市長などを市民から選びたい」と、朴さんらしい。

朴さんは市長として市庁舎で働き、私は首相補佐官として首相官邸で働いた。市民運動時代、私たちは市庁舎や官邸の外でデモをしていた。時代は変わった。しかし世界中、政治の現実はますます厳しい。

「金大中（キムデジュン）さんも盧武鉉（ノムヒョン）さんも大統領になって、現実を大きく変えられないと批判に晒されました」と朴市長。私も両大統領にお目にかかったが、いつも苦渋に満ちた顔をされていた。

政治は理想と現実の狭間（はざま）でもがき続ける仕事だ。「これからがタイヘン」としっかり朴新市長と握手した。

（つじもと　きよみ・衆議院議員）

2月14日15時現在。最新情報は ››››››››››››› つじともWEB http://www.kiyomi.gr.jp/　ツイッター @tsujimotokiyomi